

## [教育実践研究報告]

産業看護学教育の構築 第3報  
- 事業所見学の学びと授業への活用 -上野 美智子<sup>1)</sup> 梅津 美香<sup>2)</sup> 奥井 幸子<sup>1)</sup>Structuring Education on Occupational Health Nursing, Part 3 :  
- Students' Learning from Factory Visiting and it's Application to the Class hereafter -Michiko Ueno<sup>1)</sup>, Mika Umezu<sup>2)</sup>, and Yukiko Okui<sup>1)</sup>

## はじめに

本学では「成熟期看護学方法1」において産業看護学が位置づけられ、学修目的は成熟期にある働く人びとの Quality of Life (QOL) の中で、重要な位置を占める Quality of Working Life (QWL) の向上を目的とする看護のあり方を学修する。そのために健康と労働の相互関連性を理解し、人と労働・労働環境の双方に働きかけて健康を維持増進する看護方法を学修することを目標としている。成熟期看護学において、また1年次の早期に産業看護学を教育するために産業看護学教育の構築に向けて一連の研究を重ねてきた<sup>1-3)</sup>。

本論文では、事業所見学における学生の学びと授業への活用について分析した結果を報告したい。事業所見学の方法と学生の学びについて、水谷ら<sup>4)</sup>、吉川ら<sup>5)</sup>、白石ら<sup>6)</sup>の研究報告があるが、本論文のテーマに類する先行研究はみあたらないため、本学事業所見学についてこれを明らかにしたいと考えた。

## 研究目的

事業所見学における学生の学びと授業への活用を明らかにすることとする。

## 事業所見学の授業における位置づけ

平成15年度の成熟期看護学方法1は表1の方法で進めた。授業目的は働く人びとのQWLの向上を支援する看護を考える、授業目標は、健康と労働・労働環境の相互関連性を考える、人と労働・労働環境の双方に働き

かけて健康を維持増進する看護方法を考えるとした。事業所見学は、  
、  
を実地に学ぶ位置づけとした。

表1 成熟期看護学方法1 授業構成 (平成15年度)

回	目標	学習内容・方法
1		・働く人びとの健康 ・労働の人間化・人間の労働への適応を支援する看護 事業所見学のオリエンテーション
2		事業所見学 課題：事業所見学レポート
3		グループワーク 「成熟期の働く人びとの仕事と健康」 (学生各自のインタビュー事例) にもとづいて
4		事業所見学のまとめ ・職業病・作業関連疾患 ・健康診断
5		・健康診断の事後指導と看護活動 ・労働衛生教育・健康教育と看護活動 ・職業性ストレスと看護活動
6		・労働と健康をマネジメントする5管理 ・作業環境測定の意義 作業環境測定士による作業環境測定の実際
7		・労働能力 ・働く人びとの看護活動における倫理
8		体験学習
9		VDT 作業・労働衛生保護具の着用・作業環境測定
10		体験学習の発表と統合
11		統合グループワーク
12		健康と労働・労働環境の相互関連性 人と労働・労働環境の双方に働きかける看護 働く人びとのQOL/QWLを支援する看護活動
13		グループワークの発表と統合
14		看護職の実践報告と討論
15		課題レポート・総括・授業評価

目的： 働く人びとのQWLの向上を支援する看護を考える  
目標： 健康と労働・労働環境の相互関連性を考える  
人と労働・労働環境の双方に働きかけて健康を維持増進する看護活動を考える

1) 岐阜県立看護大学 機能看護学講座 Management in Nursing, Gifu College of Nursing

2) 岐阜県立看護大学 成熟期看護学講座 Nursing of Adults, Gifu College of Nursing

## ・ 事業所見学の概要

### 1. 事業所見学の目的

事業所見学を実施する目的は、働く人びとの作業態様と作業環境および事業所の産業保健活動・産業看護活動等について、学生が実地で出会い、気づき、感じ、考え、そしてそれらがその後の授業に活かされることにある。

### 2. 事業所見学企業と時期・見学者数

見学事業所は電気機械器具製造業で、時期は第3回授業に計画したが、事業所の都合で第2回授業の平成15年10月に、全学生87名と教員2名が見学をした。

### 3. 事業所見学の準備

見学に先立って、第1回授業では、授業の導入、産業保健活動の目的、労働と健康障害、労働の人間への適合と人間の労働への適応（労働と健康の調和）<sup>7)</sup>を講義し、次の事業所見学の説明をした。見学が楽しみであるという学生が多かった。

### 4. 事業所見学の内容

見学は以下のスケジュールで2時間行なった。担当部長から事業所の概要紹介（15分）、産業医から会社の産業保健活動の目的、産業医活動を事例を交えて紹介（15分）、産業看護職から健康管理室におけるの産業看護業務の紹介（15分）、衛生管理者から会社の安全衛生活動、人間尊重を基本とした快適職場づくりの紹介（15分）、質疑応答（10分）、工場見学（50分）であった。工場見学は学生数が多いため、～の前後の2班に分かれて実施した。

見学は工場の携帯電話部品、両替機部品、電子部品などの製造現場に従業員の作業態様・作業環境を見てまわった。1000名余の従業員が2交代制勤務をしていた。質疑応答の中で、産業看護職より作業による健康障害の対策に長年取り組んできており、健康障害の内容も時代の変化による影響を受けていることが話された。

## ・ 対象と方法

### 1. 用語の説明

本研究における学生の「学び」とは、「モノや人や事柄と出会い対話する営みであり、他者の思考や感情と出会い対話する営みであり、自分自身と出会い対話する営みである」<sup>8)</sup>とした。

本論文では、労働・作業・仕事、働く人・社員・従業員、

会社・事業所・企業などの用語を用いているが、これらの用語の厳密な使い分けは現在規定されていない。

従って、学生の用いた用語や前後の文脈から慣用的に使用されている用語を使用した。意味はほぼ同じである。

### 2. 研究対象

本研究の対象は、以下の2つである。

1) 事業所見学後の第3回授業時に学生が提出したレポートのなかで、「見学により気づいたこと・感じたこと」の記述を分析対象とした。レポートは87名全学生のものを対象とした。

2) 事業所見学のその後の授業への活用は、授業の配布資料、教員の授業内容の記録、学生のグループワーク資料を対象とした。

### 3. 分析方法

1) レポート分析は、「見学により気づいたこと・感じたこと」の記述内容を熟読し、1文脈を記述単位として抽出し、学生の事業所見学の体験およびそこから気づいたこと・考えたことの類似性に従いサブカテゴリー、カテゴリーにまとめて命名した。分析は、産業看護学担当である研究者3名の討議と合意により行なった。

2) 事業所見学の授業への活用は、シラバスと各回授業の分析対象資料を照合させながら、事業所見学の授業への活用が明らかなものを、研究者3名の合意により抽出した。

### 4. 倫理的配慮

レポートを研究に用いることについて、研究目的、学生のプライバシー保証、同意の有無が成績等に影響しないことを口頭で説明し、書面にて同意を得た。

また、事業所に倫理上の配慮のもとレポートを研究のために用いることの了解を得た。

## ・ 結果

### 1. 事業所見学により学生が気づいたこと・感じたこと

学生の記述数は307で、1名あたりの平均記述数は3.5 (SD=1.6) であった。記述内容を分析した結果、表3に示すように、27のサブカテゴリーと5つのカテゴリーに分類した。以下、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを , 記述例はNo.により示し、全文または要約で例示する場合は「 」で示した。

### 1) カテゴリー【作業態様が健康に及ぼす影響】

このカテゴリーは8つのサブカテゴリーから構成される。サブカテゴリー 作業体位の心身への影響, 細かい作業の心身への影響, 機械を扱う作業の心身への影響, 作業による健康への負荷, 長時間労働による疲労蓄積 は, No.1~No.5の記述例に示すように, 働き方が心身の健康に影響することの記述を含む。休憩時間の活用による疲労回復, 疲労を軽減するための対策, 作業による心身影響の改善 は, No.6~No.8の記述例に示すように, 働き方の健康影響を軽減したり改善する対策の記述を含む。

### 2) カテゴリー【作業環境が健康へ及ぼす影響】

このカテゴリーは5つのサブカテゴリーから構成される。サブカテゴリー 快適環境の心身への影響 は, No.9の記述例に示すように企業努力による快適職場環境, サブカテゴリー 温度環境の心身への影響, 視環境の心身への影響 は, No.10~No.11の記述例に示すように, 企業努力により健康障害を予防または軽減できる作業環境, サブカテゴリー 音環境の心身への影響 に関しては, No.12とNo.13の記述例に示すように同じ作業環境に対して相反する記述を含む。サブカテゴリー 空間環境の心身への影響 に関しては, No.14のように現在の科学技術では, 問題解決が困難な課題があることを示す記述を含む。

### 3) カテゴリー【作業態様・作業環境の管理】

このカテゴリーは7つのサブカテゴリーから構成される。サブカテゴリー 安全の確保, 危険作業への対応, 作業方法の教育, 作業注意書の配置, 整理整頓の実行, 作業衣着用の励行, 作業環境測定の実施 は, No.15~21の記述例に示すように, 健康で安全な作業態様・作業環境を確保するための対策や管理に関する記述を含む。

### 4) カテゴリー【働く人びとと作業態様・作業環境の双方へ働きかける産業保健活動・産業看護活動】

このカテゴリーは4つのサブカテゴリーから構成される。サブカテゴリー 働くことが継続できるよう健康維持増進を支援 は, No.22~29の記述例に示すように, 疾病の予防, 健康増進, 分煙・禁煙活動, こころのケア, セルフケアの支援と社員の健康を守る体制としての活動拠点である健康管理室と健康管理室をおけない企業への

疑問などの記述を含む。サブカテゴリー プライバシーの保護 はNo.22の記述例に示すように, 守秘義務による従業員との信頼関係がないと産業保健活動が成立しない記述を含む。サブカテゴリー 産業医・産業看護職の役割・機能と専門性 は, No.31~39の記述例に示すように, 産業医の機能, 作業改善の提案は看護職によるものが多い, 病院の看護と比較した産業看護の特徴, 社会の変化をみて問題予測が大切, 見学で興味をもったので実践をみたい, 産業保健職を初めて知った, こういうところで働きたいなどの記述を含む。サブカテゴリー 産業保健活動の意義 は, No.40~42の記述例に示すように, 保健活動があるからこそ会社がなりたっているなどの記述を含む。

### 5) カテゴリー【企業の健康・安全に関する理念】

このカテゴリーは3つのサブカテゴリーから構成される。サブカテゴリー 人間尊重/健康・安全・快適職場への取り組み は, No.43~47の記述例に示すように, 従業員を尊重する会社はよい会社, 従業員の健康あってこそ会社などの記述を含む。サブカテゴリー 従業員の健康維持増進が生産性向上につながる は, No.48の記述例に示すように, 従業員の健康は生産性を上げるなどの記述を含む。サブカテゴリー 環境への配慮 は, No.49の記述例に示すように, 環境に影響する材料を使用しないなどの記述を含む。

## 2. 事業所見学のその後の授業への活用

表1に示す授業において, 事業所見学の体験および学びを教員と学生は以下のように活用した。

1) 第4回授業: 事業所見学のレポートを提出した後であるが, 学びを見学のみで終わらせず次の授業へ活用していくために補足説明をした。従業員の健康障害を起こす可能性のある作業と対策, 業務起因性の検証, 特殊健康診断, 労働と健康の調和の実例などである。

2) 第5回授業: 健康診断の事後措置と看護活動, 労働衛生教育・健康教育と看護活動, 職業性ストレスと看護活動の授業において, 事業所見学で産業医, 産業看護職が紹介した事例を活用して授業を進めた。

3) 第6回授業: 授業協力者である作業環境測定士より作業環境測定の意義と実際について授業を行なった。事業所見学に行ったことを情報提供したところ, 見学事業所の作業環境測定についても話をしてくれ, 事業所見学

表2 事業所見学により学生が気づいたこと・感じたこと

カテゴリー	サブカテゴリー	No	記述例 (要約)	件数	学生数
作業態様が健康に及ぼす影響	作業体位の心身への影響	1	立ち作業はとても大変そうだと思います。女性の方多くいて、足や腰への負担が大きいと思います。	1	1
	細かい作業の心身への影響	2	あのように細かい作業を2時間も続けてやるのはしんどいのに、10分しか休憩がないのはストレスがたまると思う。	4	4
	機械を扱う作業の心身への影響	3	機械やコンピュータが多く、苦手な私が働いたら頭が痛くなりそう。そういう人もいるかもしれない。人の仕事の適応と仕事の人のへの適合をはかる産業保健の目的を勉強していきたい。	2	2
	作業による健康への負荷	4	夜勤と立ち作業が多いことから、青年期から壮年期前半くらいの人々が就けるだろうと思う。	5	5
	長時間労働による疲労蓄積	5	労働環境は悪いと思わないが、決められた作業を長時間続けるのは、肉体的にも精神的にもかなり疲れがたまるとは思わないかと感じた。	3	3
	休憩時間の活用による疲労回復	6	長時間の立ち作業で動くことがほとんどない状態であり、休憩時間の短い間に、いかにリラックスし気分転換を図るかが大切になると思った。	10	10
	疲労を軽減するための対策	7	立ち作業の足もとにマットが敷いてあり、休憩用のソファが置いてあった。	2	2
	作業による心身影響の改善	8	足置き台を用いたり、作業台の高さを調節できるように改善したりして、仕事をしやすい職場づくりを常に考慮しているのだと思った。	5	5
作業環境が健康に及ぼす影響	快適環境の心身への影響	9	ちり1つ落ちてなく工場がきれい、明るく、バリアフリーのつくりで、工場とは思えず驚いた。	19	17
	温度環境の心身への影響	10	人が快適な室温で作業できるのはよいことだと感じた。	2	2
	視環境の心身への影響	11	細かい仕事なので一人一人の手元にライトがあり、目の疲れへの気くばりがされていることに驚いた。	3	3
	音環境の心身への影響	12	看護職は機械の騒音は問題ないと言っていたが、慣れないうちは健康に影響がでるのではないかと思う。	4	4
		13	騒音は気になる程でなかった。	1	1
	空間環境の心身への影響	14	機械に1日中囲まれ、窓のない室内で作業しているので精神的ストレスがたまりやすそうに思いました。	10	10
作業態様・作業環境の管理	安全の確保	15	様々な所に危険などを示した貼り紙や、物を積み上げる高さが決まっていたり、フェンスがあったりと、かなり安全面を重視していた。	11	11
	危険作業への対応	16	レーザー室は危険であるため、ドアを開けるとレーザーが止まる装置になっていた。	2	2
	作業方法の教育	17	レーザーを取り扱う社員には、取り扱いについての教育がある。	2	2
	作業注意書の配置	18	工場のいたるところに表示や注意書きがあり、皆にわかり易く間違いがないようにしてあった。	5	5
	整理整頓の実行	19	使った物を元に戻し整理整頓することが実行されていた。	1	1
	作業衣着用の励行	20	安全のための作業服、髪の毛落ち防止のため帽子の着用が義務づけられていたが、かぶり方は微妙だった。	3	3
	作業環境測定の実施	21	それぞれの作業環境に合わせた環境測定がされている。	1	1
働く人びとと作業態様・作業環境の双方へ働きかける産業保健活動・産業看護活動	働くことが継続できるよう健康維持増進を支援	22	健康診断の結果指導、病気の早期発見、相談指導が行われていた。	51	48
		23	工場内に血圧計を置いたり、タバコや身体ボスターが貼られ健康に関心をもってもらう工夫がされていた。		
		24	分煙が実施されていた。		
		25	禁煙教育が実施されていたが、社内にタバコの自販機が設置されていた事が残念。教育により禁煙を実行しようとする社員に大きな妨げとなる。会社側の努力や保健活動に対する理解があってこそ実現する。		
		26	健康管理室には血圧計、体温計、体脂肪計など用意されており、自己管理ができるようになるよう用意されているものだなと思った。		
		27	健康管理室は、こころのケアも整っていた。疾病の図書やビデオの貸し出しも行っていた。メールによるプライバシーを守る形でのフォローアップも行っていた。		
		28	仕事に人をあわせるのではなく、人に合った仕事環境を作ることが健康管理室の大切な仕事だろうと思った。		
		29	従業員の健康を守るため健康管理室の体制を整えていた。しかし、小さな会社で、健康管理室を置くことはできないのではないかと感じた。		
	プライバシーの保護	30	ひとり一人カルテの保存や相談室があったり、身体にかざらず精神面の健康管理やプライバシーの保護が徹底していて、問題を解決していくためには信頼関係が必要なのことがわかった。	21	21
	産業医・産業看護職の役割・機能と専門性	31	産業医も社員をよく見ているし、会社側もその意見をすぐに反映させ改善している。	70	47
		32	作業靴、足元のマット、作業台の高さ調節、マッサージ機など看護職の提案によるものが多いと聞き、仕事内容や健康状態を把握しているからこそその結果だと思った。		
		33	会社と従業員から中立の立場に位置し、労働生活を支えていた。		
		34	この工場では社員と同じ目線で働いているというイメージをもった。		
		35	企業の中で看護をするには、積極的に問題点を探することが大切だとわかった。そのためには従業員の仕事を知る必要がある。これは病院とかなり違うことだと思う。病院は病気を見るところだが、企業ではその人の立場や仕事と一緒に病気について考え、また、個人としてだけでなく集団として考える必要があることも病院と違うと思った。		
		36	身体面や精神面の健康とそれによる仕事の能率は産業医・産業看護職が大きな役割を担っていて、健康と労働の調和をはかる、大きな存在であると感じた。		
		37	手作業では手、首、肩のしびれがおこり、機械化により解決できた部分もあるが、コンピュータに適応できないストレス、機械に合わせる疲労、会話の減少、心理的孤立、目の疲労など働く人の健康障害は社会背景と共に変動していく。産業看護職は社会の動き、業務内容を把握して問題を予想していくことが大切であると思った。		
		38	時代の流れて作業のやり方も変化し、まだまだ改善しなければならないことが多くあることも分かった。この見学で興味を持つことができたので、今度は実際に行っているところを見たいと思った。		
		39	工場に健康管理をする人がいることを初めて知った。産業医・産業看護職、健康管理センター、産業衛生科学センター、人事、外部医療機関などと連携しながら皆で従業員を看ていると分かり、私はこういう環境の中で仕事をしたいと思った。		
	産業保健活動の意義	40	産業保健活動を行うには職場巡視をして仕事や労働環境を把握し、危険な作業や労働が健康に及ぼす影響を従業員と同じ立場で見て、自分から問題を見つけることがとても大切であると感じた。	30	25
		41	労働と健康の相互関連性がよい状態であってこそ仕事ができ、そのために産業保健活動が必要であると感じた。		
		42	健康な社員がいて、そしてそれを支える産業保健活動があるからこそ会社が成り立っている。		
健康・安全に関する理念	人間尊重 / 健康・安全・快適職場への取組	43	従業員一人一人を大切にしている環境が整っている会社が良い会社で向上していく会社なのだなと思った。	32	26
		44	従業員の健康あってこそこの会社である、という雰囲気伝わってきた。		
		45	安全衛生委員会で「健康で安全・快適な職場の確立」を組織として取り組んでいる。		
		46	事故報告書が掲示しており、本社や他の支社の事故も皆で情報の共有、対策に心掛けていた。		
		47	立ち作業や騒音など、まだまだ改善すべき課題があるのだと感じた。		
	従業員の健康維持増進が生産性向上につながる	48	従業員の心身の健康があり、それぞれに生きがいをもって働くことで、結果的に能率が上がり、業績につながっていくのであると考えた。	4	4
	環境への配慮	49	照明を必要最低限以外取り外し、環境に影響する材料は使用しないなど環境に配慮し省エネで経費も削減していると思った。	3	3
総計				307	87



と授業のつながる場面があった。

4) 第7回授業：働く人びとの看護活動における倫理の授業では、海外での倫理、学会の倫理指針、実践産業看護活動における倫理の側面から実例をもとに講義をした。

その中で見学事業所のプライバシー配慮の例を活用した。

5) 第10回授業：体験学習発表会の後、事業所見学の学生レポートのまとめを資料にして返し説明した。

6) 第11回授業：“QWLの向上とは何か”について、学生は第1回～10回の授業のなかから自由に題材を選んで討議をした。12グループ中7グループが事業所見学の体験を活用した。

活用例は、夜勤、作業姿勢、長時間労働、精密で単調な作業、人間関係などの作業態様、有害作業、照明、騒音などの作業環境、安全確保、危険防止などの作業態様・作業環境の管理、健康診断、悩み相談、配置換え、喘息(疾病)のある労働者の労働・労働環境と健康の調和への支援をする産業保健・産業看護活動などであった。

7) 第12・13回授業：第11回授業のグループワークの発表と討議を行った。事業所見学の体験を活用した7つのグループからは、疾病予防、精神的ゆとり、労働者の健康と労働のバランス、事業者と労働者が話し合いで快適に働けるようにする、看護は労働と健康の相互関連性の個々に応じて支援、労働者自身が自覚して問題提起が必要で同時にそれを受けとめる企業環境も必要、仕事による健康障害防止、仕事に誇りや生きがいを感じる事ができるなどが、QWLの向上ないし影響要因であるという発表であった。

これらの発表に対する全体討議では、強い冷房を好む人と冷えるので困る人など集団と個人にとっての快適環境とは？窓を開け換気をすると騒音が入る、環境を整えようとする、別の面で悪影響がある場合はどうしたらよいか？健康管理室がない職場の労働による健康障害はどのように予防されるのか？職場で働くとき健康障害を起こすとき、誰が責任を持つべきか？など質問と討議があり、QWLの向上とは何かについて、今後考えていく課題も残された。

以上のように、事業所見学後の授業12回中、8回の授業で事業所見学の体験を学生、教員ともに活用した。統合のグループワークでは12グループ中7グループが事業所見学の体験を活用した。

## 考察

### 1. 事業所見学における学生の学び

#### 1) 健康と労働・労働環境の相互関連性に関する学び

健康と労働の相互関連性に関して、【作業態様が健康に及ぼす影響】では、働き方が心身の健康に影響を及ぼすことがあることを学び、健康影響を軽減または改善する方法があること、健康障害を予防するための作業方法の改善などがあることを学んだ。

No.3の記述例では、「機械やコンピュータが多く、苦手な私が働いたら頭が痛くなりそうだ」と作業態様による健康影響を感じ、「そういう人もいるかもしれない」と従業員のなかには自分のように仕事に適応できない人がいるかもしれない可能性に思いが拡がり、「人の仕事への適応と仕事の人への適合をはかる産業保健の目的を勉強していきたい」と、産業保健の目的の意味を体験と照合した学び方もあった。

産業看護活動では、働く現場をみて、人が仕事に適応しているか、仕事が人に適合しているか把握することが活動の基盤にあり、学生が早期に現場から、作業態様と次に述べる作業環境が健康に影響することを体験から学んだことの意義は大きい。

【作業環境が健康に及ぼす影響】では、工場とは思えない快適な作業環境 (No.9) と反対に健康に影響を及ぼす作業環境があることを学んだ。快適作業環境は企業努力により達成できる場合と、技術上困難な場合があることも学んだ。騒音に関しては、健康影響がありそうと感じた記述 (No.12) と気にならないという記述 (No.13) があり、感覚の個人差があることの気づきであった。快適感覚にも個人差が考えられる。現在、国は事業者に快適な作業環境の形成を法律により進めているが、快適感覚の個人差が配慮事項とされている。

【作業態様・作業環境の管理】は、作業態様・作業環境からの健康影響を防止または軽減し、安全に作業をするための対策があることを学んだ。しかし、現場では労働者が必ずしも規則どおりに作業を実行しない現状があり、No.21は帽子のかぶり方を着目していた。

#### 2) 人と労働・労働環境の双方に働きかけて健康を維持増進する看護方法に関する学び

【働く人びとと作業態様・作業環境の双方へ働きかける産業保健活動・産業看護活動】は、労働生活にとり最

も重要な“働く”ことが継続して可能であるよう、従業員の健康を守る活動があることの学びである。働く集団は、健康度が高いため、疾病の治療より健康・労働能力の維持増進がより重要であり、プライバシーの保護が重要であることを学んだ。それらを実践する産業医・産業看護職の役割・機能と専門性があること、それを支える産業保健活動があることを学んだ。

No.38の記述例「工場に健康管理をする人がいることを初めて知った...私はこういう環境の中で仕事をしたいと思った」や、No.37の記述例「...この見学で興味を持つことができたので、今後は実際に実践を見たい。」にみるように、産業医・産業看護職を初めて知り、その役割・機能と専門性に興味関心が深まったことが、記述数が多いことから伺えた。No.34の記述例では、「企業の中で看護をするには、積極的に問題点を探すことが大切だとわかった。そのためには従業員の仕事を知る必要がある。これは病院とかなり違うことだと思う。病院は病気をみるところだが、企業ではその人の立場や仕事と一緒に病気について考え、また、個人としてだけでなく集団として考える必要があることも病院と違うと思った。」のように病院内看護と対比させ、産業看護活動の特徴を学んでいた。

### 3) 企業の健康・安全に関する理念についての学び

【企業の健康・安全に関する理念】では、働く人びとと作業態様・作業環境への産業保健活動・産業看護活動は、企業という組織が支えている活動であり、組織には働く人びとの健康・安全を尊重する理念があることの学びであった。一方、健康管理室のない会社の従業員はどうなのか (No.29) という疑問も生じた。

以上のことより、学生は事業所見学により授業目標健康と労働・労働環境の相互関連性、人と労働・労働環境の双方に働きかけて健康を維持増進する看護方法を考え学んだといえよう。

## 2. 事業所見学の授業への活用

事業所見学後の12回の授業中、8回の授業で事業所見学の体験を教員および学生が活用したことが分かった。教員の活用の仕方には、事業所見学のまとめをしたり学生のレポートのフィードバックをしたりと意図して活用した場合と、事業所見学の事例や場面は学生と共有されているため、授業に活用することで学生の理解が容易に

なるため活用する場合があった。

学生の事業所見学の活用は、グループワークにおいてみられた。12グループ中7グループと他の資源に比較し極めて多く活用された。理由として考えられるのは、見学時に労働者・労働態様・労働環境・産業看護活動・産業保健活動・企業組織などを完結型で見たり説明を聞いたので理解しやすかつ印象に残っている、また、見学後8回にわたる授業活用は、再度見学時の学びを想起し、別の角度から学びを深める機会となったことが示唆される。第12・13回授業の統合グループワークの発表討論会で、難解な質問への課題が残された。これらを今後とも問い続け、自ら解決の糸口を探す態度を期待したい。

佐藤は教室において「勉強」から「学び」への転換を実践するために、1)「モノや人やこと」との出会いと対話による「活動的な学び」の実現、2)他者との対話による「共同的な学び」の実現、3)知識や技能を獲得し蓄積する「勉強」から脱して、知識や技能を表現し共有し吟味する「学び」の実現を提唱している<sup>9)</sup>。事業所見学による学生の学びは、佐藤の言う1)は現地での体験による学び、2)はその後の授業への活用とグループワークや発表会と討論での学びに相当するといえよう。3)は、討論会で残された課題に今後学生が向き合っている学びである。

以上のことより、事業所見学は成熟期看護学方法1の授業の中で、学生に貴重な学びをもたらすことができる優れた授業方法の一つであるといえよう。

## まとめ

「成熟期看護学方法1」における産業看護学授業で、働く人びとのQWLの向上を目的とする看護のあり方を学修する方法の一つとして事業所見学を実施した。学生は、働く人びとの作業態様、作業環境から健康に影響する要因を学び、働く人びとのQWL向上のために、従業員の健康を支援する産業保健活動・産業看護活動の重要性を学び、それを支える企業組織の理念を学んだ。

事業所見学の体験を、学生・教員ともにその後の授業にしばしば活用し、「活動的な学び」、「共同的な学び」となった。事業所見学は学生に貴重な学びをもたらすことができる優れた授業方法であり、実施する意義が大きいことが明らかになった。

## 謝辞

本学の事業所見学に際し、多忙の中大勢の学生の受け入れにご尽力してくださり、研究協力をいただきました事業所の方々、そして本研究に快く協力してくださいました学生の皆様に深謝いたします。

## 引用文献

- 1) 上野美智子, 梅津美香, 奥井幸子: 産業看護学教育の構築 第1報 - 学生による働く人の仕事と健康の関連に関するインタビューの分析 -, 岐阜県立看護大学紀要, 2(1); 124-130, 2002.
- 2) 梅津美香, 上野美智子, 奥井幸子: 産業看護学教育の構築 第2報 - 作業環境・作業態様についての体験学習を通じて学生が考察した看護援助 -, 岐阜県立看護大学紀要, 3(1); 82-88, 2003.
- 3) 梅津美香, 上野美智子, 奥井幸子: 産業看護学教育の構築 第4報 - QWLの向上を目的とする看護のありかたについての学生の考察 -, 岐阜県立看護大学紀要, 4(1); (投稿中), 2004.
- 4) 水谷聖子, 小塩康代, 岡部知恵子: 地域看護学専攻科における産業保健活動論の教育方法の検討(1) - 産業現場の見学を導入して -, 日本赤十字愛知短期大学, 14; 147-159, 2003.
- 5) 吉川智恵子, 伊藤幸子ほか: 沖縄県立看護大学の成人保健看護概論の授業展開 第2報 - 事業所見学に焦点をあてて -,
- 6) 白石知子, 泉明美: 産業看護の理解にむけた教育方法に関する研究 - 施設見学後レポートの分析より -, 日本地域看護学会第3回学術集会講演集, 139, 2000.
- 7) 奥井幸子, 上野美智子ほか: 新版看護学全書16, 成人看護学 (野口美和子編); 122-123, メジカルフレンド社, 2000
- 8) 佐藤学: 「学びから逃走する子どもたち」, 56, 岩波ブックレット No.524, 2003.
- 9) 前掲 8) 57 - 60.

(受稿日 平成16年2月24日)